

「コンパス生物薬剤学」

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）対応一覧

2015.3 (株) 南江堂

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
E 医療薬学		
E4 薬の生体内運命		
(1) 薬物の体内動態		
①生体膜透過	1. 薬物の生体膜透過における単純拡散，促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。 2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ，その特徴と薬物動態における役割を説明できる。	2章
②吸収	1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。	3章
	2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。	
	3. 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性，生理学的要因など）を列挙し，説明できる。	7章
	4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ，説明できる。	3章
③分布	5. 初回通過効果について説明できる。	
	1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ，タンパク結合の強い薬物を列挙できる。	4章
	2. 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を，定量的に説明できる。	
	3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。	
	4. 血液-組織間門の構造・機能と，薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。	
	5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。	
④代謝	6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ，説明できる。	
	1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し，その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官，反応様式について説明できる。	5章
	2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解），第Ⅱ相反応（抱合）について，例を挙げて説明できる。	
	3. 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。	
	4. プロドラッグと活性代謝物について，例を挙げて説明できる。	5章，7章
⑤排泄	5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと，それらに関連して起こる相互作用について，例を挙げ，説明できる。	
	1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	6章
	2. 腎クリアランスと，糸球体ろ過，分泌，再吸収の関係を定量的に説明できる。	
	3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	7章
	4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	
E3 薬物治療に役立つ情報		
(3) 個別化医療		
①遺伝的素因	1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について，例を挙げて説明できる。	7章
	2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について，例を挙げて説明できる。	
	3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について，例を挙げて説明できる。	
②年齢的要因	1. 低出生体重児，新生児，乳児，幼児，小児における薬物動態と，薬物治療で注意すべき点を説明できる。	
	2. 高齢者における薬物動態と，薬物治療で注意すべき点を説明できる。	
③臓器機能低下	1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と，薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	
	2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と，薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	
	3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と，薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	
④その他の要因	1. 薬物の効果に影響する生理的要因（性差，閉経，日内変動など）を列挙できる。	
	2. 妊娠・授乳期における薬物動態と，生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。	
	3. 栄養状態の異なる患者（肥満，低アルブミン血症，腹水など）における薬物動態と，薬物治療で注意すべき点を説明できる。	